

2020年度事業活動報告書

(2020年4月1日～2021年3月31日)

特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう

1、特定非営利活動に係る事業

(1) 意思伝達装置に係る支援事業

- ① 患者支援は札幌市内 72 名、札幌市以外 35 名の患者やご家族からの相談を受けて支援させていただきました。
- ② 今年は初めて年度末の活動報告会を有料(500 円)で実施し、2019 年度から iCare ほっかいどうの訪問支援が有償(札幌市内 3000 円、市外 3000 円+交通費実費)になることをお話し、アンケートでは約 9 割の方が賛同してくれました。活動報告会では北海道大学病院神経内科医の松岡理明先生から「多系統萎縮症患者のコミュニケーション」というテーマでお話をいただき、「同じ病気でも一人一人違うので、コミュニケーション手段も個々に方法を考える必要がある」というお話をさせていただきました。参加者は 40 名程でした。
- ③ 現在 4 つの大学等の作業療法学科の授業 (AAC、地域作業療法等) で意思伝達機器に関する講義を担当しています。また学生の実習を受け入れて、スイッチ作成や患者さん訪問などを行い、道内のコミュニケーション支援に関する現状を学んでいただいています。年度末に札幌市内の専門学校の ST 科 PT 科からも声をかけていただき、新年度からは 6 校となり、また新しい出会いがありました。
- ④ 日本 ALS 協会など、患者会との連携が進み、コミュニケーションだけではなく、生活に不安を抱える患者さんにとってもより心強い存在になりたいと思います。
- ⑤ 養護学校からの依頼を受けて、活動報告や機器展示、スイッチ作成の勉強会を実施しました。
- ⑥ 札幌市障がい福祉課から助成金をいただき 8 日間 16 コマに及ぶ長期のコミュニケーション研修会を実施しました。参加者は延べ 196 名。参加して下さった医療者や講師を務めて下さった皆さん、会場を貸して下さった札幌医科大学病院、ノーザリーライフケアさんには大変感謝しております。来年度はもう少し間隔をゆったりとって実施する予定です。
- ⑦ 三角山放送局で毎月第 4 土曜日に放送されている「ALS のたわごと」(ALS パーソナリティ米沢和也、協力 : iCare ほっかいどう) がまる 4 年を迎え、公益財団法人『テクノエイド協会』平成 30 年度障害者自立支援機器導入好事例普及事業～障害者の自立支援機器の普及と利用促進に向けて～というテーマで“声を失ったパーソナリティがラジオを継続”が「好事例賞」を受賞しました。昨年は全国 8 社の新聞に掲載され、ジャパントイムズにも紹介されました。

(2) 放課後デイサービス事業

「放課後デイばおぼぶ」は 6 年目を迎えます。

昨年初めからの新型コロナウイルス感染症のまん延により、放課後デイも大きな影響を受けました。学校の休校措置に伴い「ばおぼぶ」も 5 月には 1 ヶ月以上に及び休業せざるを得なくなりました。再開した後、子どもたちが戻ってきてくれるのかどうか心配しましたが、ほとんどの子どもたちは元気に利用を再開してくれました。

ただ、親子遠足、ファイターズ見学、「いっしょにね！文化祭」、クリスマス会などすべての行事ができなかったことは残念でなりません。

3 月には 4 人の高校生が卒業していきました。1 月からは未就学の子どもたちの利用ができる「児童発達支援」を始めることになり、利用が大幅に増えました。問い合わせも多く寄せられています。

デイでの活動内容も充実してきました。視線入力を使ったゲームを楽しむ子も増え、スイッチを使った

集団遊びも充実し、バリエーションのある活動ができるようになってきました。5年間の積み重ねは大きいと感じています。また、人工呼吸器をはじめとした医療的ケアの重い子どもたちも増えていますが、スタッフはとまどうことなくケアを行っています。

(3) 情報収集、情報提供及び調査研究事業

該当なし

2、その他の事業

該当なし